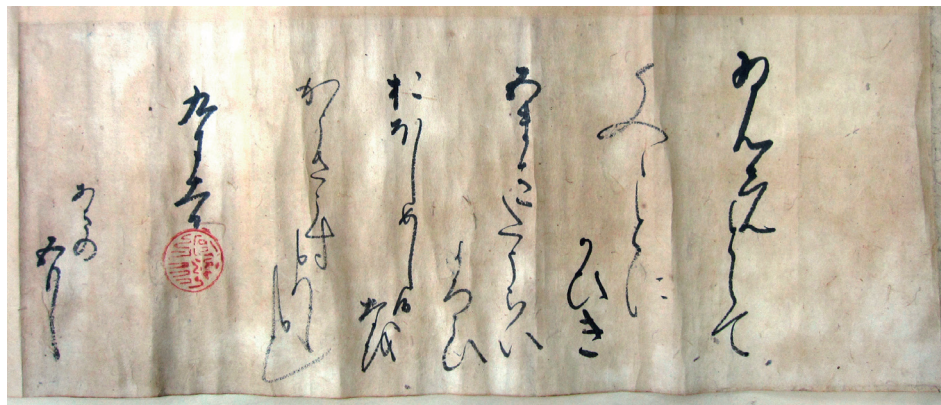


豊臣秀吉



* 右田毛利家文書貴14 (7) 「豊臣秀吉朱印状」。本文は「あんしん（音信）として、文こと（殊）にかひき（海気）五まき（巻）たうらい（到来）。よろこひ（喜び）おほしめし（思し召し）候。なを（猶）かうさうす（孝蔵主）申すべく候。かしく」

解説

全国統一を目前にしながら倒れた織田信長の後継者が、豊臣秀吉（1537～98）です。1585（天正13）年四国の長宗我部氏を降した秀吉は朝廷から関白に任じられ、「豊臣」姓を名乗りました。そして、天皇から日本全国の支配権を委ねられたと称し、惣無事（全国の平和）を呼びかけて全国統一事業を進めました。1587（天正15）年に九州の島津氏を、ついで1590（天正18）年関東の後北条氏と奥羽を平定して、ついに全国を統一しました。こうして、低い身分に生まれながら、「天下人」にまで上り詰めた秀吉は、成功物語の主人公として語り継がれ、今なお大阪を中心に「太閤さん」として人気があります。

写真の、秀吉が手紙や海気（絹織物）が届いたことを喜ばしく思う旨を伝えた礼状です。宛名の「あきの五もし」とは、「安芸国にいる娘」という意味で、かつて秀吉の養子の妻であった女性（毛利輝元の従姉妹）と考えられています。天下人の秀吉から親しく呼びかけられて、彼女もうれしかったのではないのでしょうか。秀吉が多くの人々に支持された理由の一つとして、人情家で、人を魅了する性格であったことがあげられます。この資料もそういった彼の性格の一端を表すものでしょう。

* 当館には、豊臣秀吉の出した文書として、宍戸家文書巻1（11）、三浦家文書甲5（108）、右田毛利家文書貴7（13）、同8（16）、同14（4）～（6）、村上家文書272・273などがあります。